

CLUSTERPRO
MC RootDiskMonitor 1.2
for Windows

CLUSTERPRO
MC StorageSaver for BootDisk 1.2
(for Windows)

イベントログメッセージ一覧

© 2014(Mar) NEC Corporation

- ☐ RootDiskMonitor の運用メッセージ
- ☐ その他のメッセージ
- ☐ 障害解析情報の採取

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2012.9	新規作成
2.0	2013.9	・OverAction と、DiskStalAction の値変更(AcionNone → ServiceCmdDisable、ProcessOfRdmstatKillEnable → ServiceCmdEnable)記載。 ・TestIOModeMPIO と、TestIOMode のメッセージ追記 ・Windows Server 2012 対応
3.0	2014.3	・Windows Server 2012 Datacenter、Windows Server 2012 R2 対応 ・サービス起動に関するメッセージを追加

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 1.2 for Windows (以後 RootDiskMonitor と記載します)、および CLUSTERPRO MC StorageSaver for BootDisk (for Windows) の出力するイベントログのメッセージの意味と対処方法について説明したものです。

(注) StorageSaver for BootDisk は、以後 RootDiskMonitor と表記します。

- (1) 本書では、【インストールフォルダ】を”C:\Program Files” とします。
- (2) 【windir】は環境変数の値で、通常は”C:\WINDOWS”です。
- (3) 商標および登録商標
 - ✓ Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - ✓ Windows Server 2003 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2003 Operating System です。
 - ✓ Windows Server 2008 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 です。
 - ✓ Windows Server 2012 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2012 です。
 - ✓ この製品には Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェア(log4net)が含まれています。著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。
【インストールフォルダ】\¥HA¥RootDiskMonitor¥bin¥LICENSE.txt
 - ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
 - ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1. はじめに	1
2. RootDiskMonitor の運用メッセージ	2
3. その他のメッセージ	3
□ サービス起動に関するメッセージ	3
□ プロセス間通信に関するメッセージ	3
□ コンフィグレーションに関するメッセージ	3
□ ライセンス管理に関するメッセージ	7
4. 障害解析情報の採取	8
4.1. 本製品の障害解析情報	8

1. はじめに

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
【】	ファイル名およびフォルダ名の前後	【インストールフォルダ】¥HA¥RootDiskMonitor ¥conf¥rdm.config

2. RootDiskMonitor の運用メッセージ

特に重要度の高いメッセージを記載します。

これらのイベントログメッセージを警報対象として監視することを推奨します。

- TestI/O のリソース監視で異常を検出した場合

エラー

パスがDownになりました。(パス = ‘パス情報’)

説明: TestI/O でパスレベルの異常を検出

処置: I/O パス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

3. その他のメッセージ

その他のメッセージの説明を記載します。

これらのイベントログメッセージはディスク装置の故障ではなく、サービスの内部的なエラーや情報のため警報対象として監視することは不要です。

□ サービス起動に関するメッセージ

レジストリからインストールパス情報が取得できませんでした。

説明: レジストリに RootDiskMonitor の情報がない可能性があります。

処置: レジストリの情報を確認してください。情報がない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

無効なドライブレターが監視対象にされています。[DriveLetter = {xxx}]

説明: rdm.config ファイルに定義されている DRIVELETTER の情報が、物理ディスク上に構築された OS ディスク情報と一致していない可能性があります。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

□ プロセス間通信に関するメッセージ

サーバチャネルの作成に失敗しました。(xxx).

説明: Rdmdiagd.exe がプロセス間通信の設定に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

□ コンフィグレーションに関するメッセージ

【インストールフォルダ】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf¥rdm.config が見つかりません。

説明: RootDiskMonitorの起動(設定ファイル

【インストールフォルダ】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf¥rdm.config のオープン)に失敗しました。

処置: 設定ファイルが存在しません。

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダ】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf¥rdm.config の読み込みに失敗しました。

説明: rdm.config ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置: rdm.config ファイルの内容が不正な可能性があります。

不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで 設定ファイルの自動生成を行ってください。

システム定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxx)

説明:rdm.config ファイルに設定可能なエントリではないエントリが記載されています。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault の設定可能範囲は30～2147483647です。(xxx)

TimeDiskFault は default の値(60)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskFault に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(60)で起動します。

処置:特に必要ありません。

- ※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault のフォーマットが不正です。(TimeDiskFault xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskFault が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTestIOInterval の設定可能範囲は1～86400です。(xxx)

TimeTestIOInterval は default の値(5)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeTestIOInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(5)で起動します。

処置:特に必要ありません。

- ※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTestIOInterval のフォーマットが不正です。(TimeTestIOInterval xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeTestIOInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval の設定可能範囲は0～2147483647です。(xxx)

TimeReadInterval は default の値(0)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeReadInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(0)で起動します。

処置:特に必要ありません。

- ※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval のフォーマットが不正です。(TimeReadInterval xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeReadInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

OverAction の設定可能な値は

ServiceCmdDisable, ServiceCmdEnableです。(xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている OverAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

OverAction のフォーマットが不正です。(OverAction xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている OverAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall の設定可能範囲は60～86400です。(xxx)

TimeDiskStall は default の値(360)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskStall に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(360)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall のフォーマットが不正です。(TimeDiskStall xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskStall が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction の設定可能な値は

ServiceCmdDisable, ServiceCmdEnableです。(xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction のフォーマットが不正です。(DiskStallAction xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval の設定可能範囲は1～108000です。(xxx)

WaitTestIOInterval は default の値(5)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval に

設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(5)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval のフォーマットが不正です。(WaitTestIOInterval xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode の設定可能な値は Inq, InqTur, InqTurRead, Readです。(xxx)

TestIOMode は default の値(InqTur)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOMode に

設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(InqTur)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode のフォーマットが不正です。(TestIOMode xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOMode が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO の設定可能な値は ENABLE, DISABLEです。(xxx)

TestIOModeMPIO は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO に

設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(DISABLE)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO のフォーマットが不正です。(TestIOModeMPIO xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DRIVELETTER のフォーマットが不正です。(DRIVELETTER xxxxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DRIVELETTER エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

VOLTYPE のフォーマットが不正です。(VOLTYPE xxxxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている VOLTYPE エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP のフォーマットが不正です。(GROUP xxxxx yyyyy)

説明:rdm.config ファイルに定義されている GROUP エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DISK のフォーマットが不正です。(DISK xxxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DISK エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明:rdm.config ファイルに定義されている DISK エントリより上に

GROUP エントリが記載されていません。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

□ ライセンス管理に関するメッセージ

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うホストIDで生成されています。

説明:ライセンス認証に失敗しました。ホスト情報が一致していません。

処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うプロダクトキーで生成されています。

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが一致していません。

処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。プロダクトキーは存在しません。

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが登録されていません。

処置:ライセンスファイルに有償ロックキーを登録してください。

ライセンスチェックに失敗。ライセンスは期限切れです。

説明:ライセンス認証に失敗しました。試用期限を過ぎています。

処置:正式版ライセンスを登録してください。

ライセンスツールがインストールされていません。

説明:ライセンスツールがインストールされていません。

処置:ライセンスツールをインストールしてください。

4. 障害解析情報の採取

本製品運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の手順にしたがって情報採取を行ってください。

4.1. 本製品の障害解析情報

- RootDiskMonitor 構成ファイル群
RootDiskMonitor の構成ファイル群を保存します。
Zip などを使用して、以下に示すフォルダ配下のすべてのファイルを採取してください。

【インストールフォルダ】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf

【インストールフォルダ】¥HA¥RootDiskMonitor¥log

- イベントログ
障害発生時のイベントログファイルを保存します。

アプリケーションログ

Windows Server 2003 の場合

【 windir 】¥system32¥config¥AppEvent.Evt

Windows Server 2008／2012 の場合

【 windir 】¥System32¥winevt¥Logs¥Application.evtx

システムログ

Windows Server 2003 の場合

【 windir 】¥system32¥config¥SysEvent.Evt

Windows Server 2008／2012 の場合

【 windir 】¥System32¥winevt¥Logs¥System.evtx

- ホスト情報

本製品を実行しているホスト上で、以下の情報を採取してください。

コマンド出力結果

diskpart コマンドの以下の出力結果

list disk

list volume

list partition (※1)

spscmd -getlun -a (※2)

powermt display dev=all (※3)

(※1) すべてのディスクの結果を取得

(※2) SANboot 環境で StoragePathSavior を使用している場合

(※3) SANboot 環境で PowerPath を使用している場合

クラスタ関連ファイル

(※)クラスタ関連ファイルについては

各クラスタウェア製品により異なりますので、製品ごとにマニュアルを参照してください。

- 操作ログ

再現方法が明確な場合は、操作ログを採取してください。

CLUSTERPRO
MC RootDiskMonitor 1.2 for Windows

CLUSTERPRO
MC StorageSaver for BootDisk 1.2 (for Windows)

イベントログメッセージ一覧

2014 年 3 月 第 3 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番地 1 号
TEL (03) 3454-1111 (代表)



© NEC Corporation 2014

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙